

会議記録

会議名	第3回（仮称）市民協働推進指針策定委員会
日時	平成 23年 10月 26日 18時 0分 ~ 20時 15分
場所	市役所 2階 本館会議室
参加者	市 赤羽秘書政策班長、秘書政策班森山主査、総合政策課手塚副主幹 策定委員 別紙名簿のとおり

開 会（赤羽秘書政策班長）

開会及び資料の確認

会長挨拶（宮崎会長）

本日は前回に引き続き、「より良い協働を進めるためには」をテーマにワークショップを行います。資料の前のまとめをご確認いただければ、自分の意見を確認できると思いますが、今回も是非しっかりと自分の意見を出し、話し合ってください。



1．前回のまとめ

前回のワークショップを配布し、資料に基づき主な意見を確認した。

2．ワークショップ



別紙の4班に分かれて「より良い協働を推進する為には」をテーマにワークショップを実施した。



所要時間

90分

3．発表（要旨）

各グループ5～7分を目安に、グループのまとめ（別紙のとおり）を発表した。

Aグループ

協働の成功のためには、まず、組織が必要である。それから、制度も必要である。また、情報も大事であるし、最も大切なのは人であり、協働する為には人をどうするかが重要なのである。これらが揃って、はじめて協働の成功に繋がる。



具体的にはまず「組織」について、1つは、団体間で交流する為には、行政が間に立たないと難しい。行政の力を借りる必要があるだろうと考えた。もう1つは、行政にそういう役割を担ってもら一方で、市民の役割も明確化する。そんな組織が必要である。

次にそれ踏まえて「制度」について考えると、最も重要なことは、窓口を作ることである。窓口がないと、ど

うやってよいか分からないので、窓口不可欠であろう。

次に「情報」について考えると、まず分かり易い情報を発信することに尽きる。難しい用語などを使ってしまうと、読んでもらえないこともあるので、できるだけ簡易にすることが大切である。と、同時に、どういう目的なのか・どういう人に当てた情報なのかを明確化することも大事である。それと、スピードが大事である。伝達するのにのんびりしていたのでは情報は死んでしまうので、スピード化は大切である。

最後に、協働成功にはやはり人が最も大切であり、人をどうまとめるかということである。それには、矢板市を本当に心から愛するように人を育てることが最も大事である。またその為には、良き指導者を選ぶ必要がある。その指導のもと、地域からどんどん人を育成し、まとめて行けば協働の成功に繋がって行く。

Cグループ

まず協働を成功させる要因として、1つは人が気軽に集まれる居場所が不可欠である。矢板市には誰でも何時でも自由に来れる場所は今までなかったので、そういう居場所づくりが必要である。

もう1つは、情報を公開して共有すること。共有する人が多いほど成功に繋がる。



それから人材について、ボランティア精神を豊かに持つ人が不可欠であり、積極的な、前向きな人を集めることが重要である。と同時に、そういった人材を育成していくことが大切である。

さらに、そうやって集まった人は対等でなければならず、上から目線の人がいてはいけない。

次に、色々な面での交流も必要であろう。現在団体間での交流は少ないと言わざるを得ず、様々な団体が積極的に交流することも重要である。

それから目標の明確化、やはりやろうとすることを明確にしておかないと前には進めないのも、目標を明確にしベクトルを合わせることも大切である。

最後に最も重要なのがお金、財政的支援はなくてはならない。

一方、協働を妨げる要因としては、まず無関心。誰かがやってくれるという他人任せな人が多いと、協働は妨げられる。

それから、非対等、すぐ上下関係を持ち出す人がいるとうまく行かない。

その他、目的意識が欠如していたり、個々人の心の問題を持ち出してしまふことも妨げとなる。



Bグループ

必要不可欠な事と問題点を、それぞれ項目別に分けると、まったく正反対のことが出てきた。それは、大まかに人育成要素、組織・制度要素、情報要素、意識的な要素となる。

まず人に関する問題では、市民の中からその分野の専門家を選び活動させること。それからボランティア

サポートセンターの様に、市民の活動状況などの状況を集約し、提供する仕組み。研修それと、を通して市職員の協働に対する意識の高揚と、協働の担い手づくりが必要であると考えた。

問題点としてはこの逆で、市民活動の新たな担い手の人材育成があまり進んでいない。それと、ねたみ、ひがみ、場合によっては出る杭を打つという風潮、人間性の問題がある。更に、人間関係の希薄があり、地域住民の横のつながりが広がって行かないなどが考えられる。

次に組織、制度の必要な要素として、複数の部署と関連する一本化した窓口。市民活動に対する適切な、より効果的な財政支援などが考えられる。

情報関係は、まずこの指針をどのように市民にPRするか。その他、広報活動を細やかに発信し、全市民に情報を届けること。それから、「協働」に対する市民のニーズ、考え方などの意識調査などが必要なことであると考えられる。

意識的要素としては、行政による協働の形態には、共催、後援、補助金、委託などがあるが、市民と一緒に知恵を出し合い、汗を流す、これに尽きるのではないかと考えた。

問題点は、情報的要素では、協働に対する市民ニーズの把握が不十分ではないか。行政の説明責任の不足と情報発信の弱さあるのではないかと考えられる。

意識的な問題点としては、やはり市民と行政の役割分担に基づき連携協力する意識が低いのではないかと。地域におけるコミュニティ機能や意識が低下している。従来からの慣習にこだわり、現状を変えようとする意識・体質がある等が考えられる。

以上のようにあった方が良い事の全くの反対が問題点である。



Dグループ

D班は、より良い協働を進めるためにはを、「情報発信」、「人材」、「ネットワークづくり」、「協働テクニック」にまとめた。

まず情報発信は、声かけや参加の呼びかけ、ボランティアや行政がそれぞれアピールすると同時に、お互いに他の団体等の活動内容を知って行くことである。

次に人材は、まずリーダーとなる人が必要であり、中心人物が一生懸命でないと、周りは付いてこない。さらに団体同士を結び付けるコーディネーターも必要であり、積極的に活動するメンバーも把握しておくべきである。

情報発信+人材が、協働においては最も重要であると考えられる。

<p>次にネットワークづくりとしては、ボランティア同士が集い合い、参加することで知り合いを増やしていくこと。顔の見える関係を普段から作っておくことなど必要である。</p>
<p>協働のテクニックとして、他人が意見を出した時に批判をしないとか、お互いの多様性を認め合うこと。それぞれの団体の得意分野を生かし、長所を褒め合うこと。それぞれの責任を明確にし、役割分担をしっかりとすることなどが重要である。</p>
<p>協働であっても活動にはお金がかかるが、行政がそこに入り係わった上で参加者はボランティア精神を発揮し、多少の負担を負ったとしても頑張っていくことが必要である。</p>
<p>妨げになることとしては、まず情報発信しても無関心な人達がいること。各団体とのつながりが少ないのでネットワークが作れないという現状。団体間で互いに批判し合っていること、などがある。</p>
<p>4 . その他</p>
<p>今回は11月25日(金)18時から第1委員会室で実施する。</p>
<p>「指針に盛り込みたい内容」をテーマにワークショップを行う。</p>
<p>今までの会議内容、資料を基に指針の項建てについて、4～5個の大項目と、中項目程度までを考えて頂き、その次の回で全員で項建てを決めて頂きたいと思います。</p>

より良い協働を推進する為には

組織

- 団体間の交流を定期的に行うため行政が間に入る必要がある
- 行政の役割と市民の役割の明確化
- 子ども相手の行事を多くする
- 交流会をやる場合は、1人1品料理を持ってくるようにし、経費の負担を軽くする

常日頃からのコミュニケーション

グループ活動(趣味)で情報を共有する

分かり易い情報を流す

協働の妨げとなることの1番はプライバシーの保護なので、情報交換などの交流を通じて、お互い親近感を持てるようにする必要がある

情報の共有
婦人会として行事は全会員116名全員にお知らせする

情報

ペーパーからの情報は、多くの人に伝わりにくい、読まない

情報発信する場合、いつ、どこで、誰が、何の為に、どれくらいの規模で(人数)を明確化する

伝達スピード
組織の明確さ

情報を共有する為に団体を活用する方法と、個人へ直接するのか、目的によって使い分ける必要がある

協働の成功

制度

- 協働を受け入れる窓口をつくる
- 若い方々に参加してもらおう為にどうアピール出来るか、どうつないでいけるか
- 制度は必要であり、時代と共に改革することも必要
- 慣習にとらわれず良いものは残しつつ、若い方にもどんどん意見を聞いて行く
- 史跡や文化的な施設であっても、市民がケースによっては使えるようにする
- 他の地域(矢板市以外)での成功例から、矢板市として頂けるものにも目を向けて行く

協働を考える制度をつくる

シルバー大学
北校矢板市同窓会の行事を活用する

矢板市を愛する人になるよう仕向ける(矢板をケナス人が結構多い)

非協力的な人を仲間に入れる努力をする

良き指導者の選任(養成より見つけ出す)

他の団体との交流を図る

スポーツや音楽などを通じ、同じ行動をすると輪が広がる

小さな組織(班など)であっても、班長がリーダーとなって交流する場づくりをする

地域から有能な人材を探して力を借りる

自主的に参加する積極性の醸成

自分のGとか小さな事にとらわれずに、良い物・良い意見には賛同していく

人

協働を成功させる

居場所

- 気軽に集まれる居場所づくり
- 誰でも気軽に参加できるように、分かりやすい拠点
- 情報交換のできる場所、集いの場、活動のできる場所
- 行政側は市民がいつでもどこでも誰でも参加できるような環境・窓口の整備

情報共有

- より多くの情報を公開し、情報を共有しやすい環境づくり
情報を共有した人が多い集団ほど活動が活発
- 市民の声を反映させる機会(シンポジウム、パブリックコメント)、情報の共有

交流

個人、団体、サークルを問わず交流の場が少ない まずは目的の似ている団体の交流からスタート	年に1、2回直近の問題点を若い世代から高齢者、様々な分野の人達で意見交換をする場を作ると良い
若い世代の意見が出し易い環境づくりが必要	同じ活動と一緒に行動すること
住民と共に公共サービスを提供していく体制づくり、ルールづくり	定例会議(コミュニケーション)

人材育成確保

成功するには、若い人にも行動に参加してもらいたい	年代を越えたつながら、人材の活用
成功には人材が必要、まずは協働に関心のある人集め	片寄ったメンバーの集まりではなく、幅広い年齢層の人材を確保する
何か行動を起こそうとすると実態はシルバー世代が中心になりがち、若い人の参加し易い環境作りが必要	仲間人材
協働に関心のある人材育成を積極的に展開し層を厚くする	

目標の明確化

方向性、目標の統一	魅力、充実感、達成感、興味をいだけ事業の展開
ニーズ、課題、問題点、改善点の把握	協働をしたい関係団体との連携、コミュニケーション
住民の目線で共通の目的を持って参加する意識	市の職員の方々がもっと現場に向いて市民とのコミュニケーションをとって欲しい
	制度とのすり合わせ 行政と市民との「協働」の概念をなるべく同じくすること

ボランティア精神

- 個人それぞれの主体的な参加
- 自らできること責任を持ち進んで行うこと 積極性、信頼関係、やる気、郷土愛
- 他人任せでなく、お互いに思いやりを持ってボランティア精神で自ら活動する
- 協働を成功するには物言に斗ってボランティア的な考えが必要である

対等

- 市民、市民活動団体、事業者、行政が対等な立場であること

お金

- 資金

C 班 協働の妨げになる

無関心

不参加 人任せな行動	無感心
他人まかせ 自分1人くらい無関心 マイ入の気持ち	仲間とのコミュニケーション不足
行政サイドの職員に協働を意識して行動する人が少ないのでは	妨げの問題点 事業等に対して市の職員の人等の指導があまりない

非対等

- 強制押しつけ
- 上下関係 プライド 保守的考え

目的意識の欠如

- 目的意識の不透明さ、不一致

資金不足

- 最低限の資金もない

信仰

- 宗教、政治的活動、営利活動

B グループ

より良い協働を進めるためには

必要不可欠なこと、あったほうが良い事

人 育成要素

<必要不可欠> 各事業を推進する幅広い年齢の人を選ぶ 若い人 中年 高齢者	<必要不可欠> 市民の中からその分野の専門家を選び実行委員として活動させる	行政区内の風通しを良くする 情報の共有 助け合いの強化	ボランティアセンターの様に市民の活動状況などの情報を集約し提供する仕組みをつくる	地域の人材発掘と活用 担当者が変わったからということまでの方針を大きく変えないこと(事務引き継ぎの徹底)	市職員との協働に対する意識の高揚と担い手づくり(研修の徹底) 協働しやすい環境づくりとコーディネート
--	--	-----------------------------	--	---	---

組織・制度要素

<必要不可欠> 各事業を推進するリーダー・組織 委員の選出	<必要不可欠なこと> 協働テーマを作成した後これを実行するための組織 体制をはっきりさせておく事	協働をする上でどのような手順で行うのか分かりやすく示したマニュアルの作成	市の市民活動に対する適切かつ効果的な財政支援	何か活動をしたと思った時に、活動への参加方法や相談できる調整窓口が必要である。
協働を必要とする事項を絞り込み 内容を明確にする 方向性の明確化	複数の部署と連携する場合の行政窓口の一本化	協働するに当たって行政は市民とのかかわりの中で何をどのようにしていくことがどこまでのことをするのがよいのかを明確にし 認識して頂くこと	時代に合った適切な指針となるよう 必要に応じた見直しを	協働を進める上で行政側の組織体系の確立と推進体制の強化(慣例 前例踏襲的な体質の改善 縦割り組織の弊害からの脱却)
			協働による成功例や失敗例を次に活かせる仕組みづくりを(プラン、ドゥ、チェック、アクションのマネージメントサイクルを)	「協働」の視点からキーワードにした事業評価の手法

情報要素

<必要不可欠なこと> 市役所 行政区 市民の情報流通を良くする	<必要不可欠> 市民にいかにして情報を徹底させるか	この指針をどのように市民にPRし啓発するか 周知徹底させる方法を具体的に考える(あることすら市民が知らないのでは困る)	情報の発信をもう少しきめ細かに出来るようになった方が良い	市民と行政との意見交換会の活動をもう少し多く設ける
広報活動を細やかに 情報の発信量を上げる 全市民に情報を届ける	活動している市民団体を広報活動の中で知ってもらう 意識の向上を図る	「協働」に対する市民のニーズ、考え方などの意識調査が必要	地元の話し合いの場 班単位の意見交換の場を多くしたい	

意識的要素

行政による協働の形態には共催 後援 補助金 委託など色々あるが 要は市民と一緒に知恵を出し合い汗を流すことこれに尽きる

問題点

人間関係要素

<問題点> 高齢化による無関心層の増加	市民性 ねたみ たがみ 出る杭を打つ	人間関係の希薄さがなかなか地域住民の横のつながりに広がらない
市民活動を担う新たな人材育成が進んでいない	<協働の妨げ> よそ者を受け入れがたい体質	

組織・制度的要素

「市民力」「市民活動団体の自立」「協働」の名を借り 本来行政がやらなければならないことを市民に肩代わりさせているとの指摘がある	相変わらずの縦割り行政 横の連携の欠如(横断的な対応の希薄さ)(多様化する市民活動に的確な対応がされていない)	行政サイドの窓口の一本化が理想だが、現在の体制では難しい	市職員との地域自治会活動や市民活動への参加が足りないのでは	「人・物・金」等を含む地域資源を活かし切っていない
市職員との「協働」に対する理解(認識)不足と消極的な姿勢(聞くところによると最初からはなるべく関わらないようにとの基本姿勢がある)	市職員との市民に対するマニュアル的な対応(臨機応変・柔軟性に欠ける)	市行政の市民活動に対する指導助言する窓口機能が十分でない	相互交流や情報交換できる活動拠点機能が不十分であって十分に活用されていない	市民活動に対する市の助成(補助金)の不平等感 不公平感

情報的要素

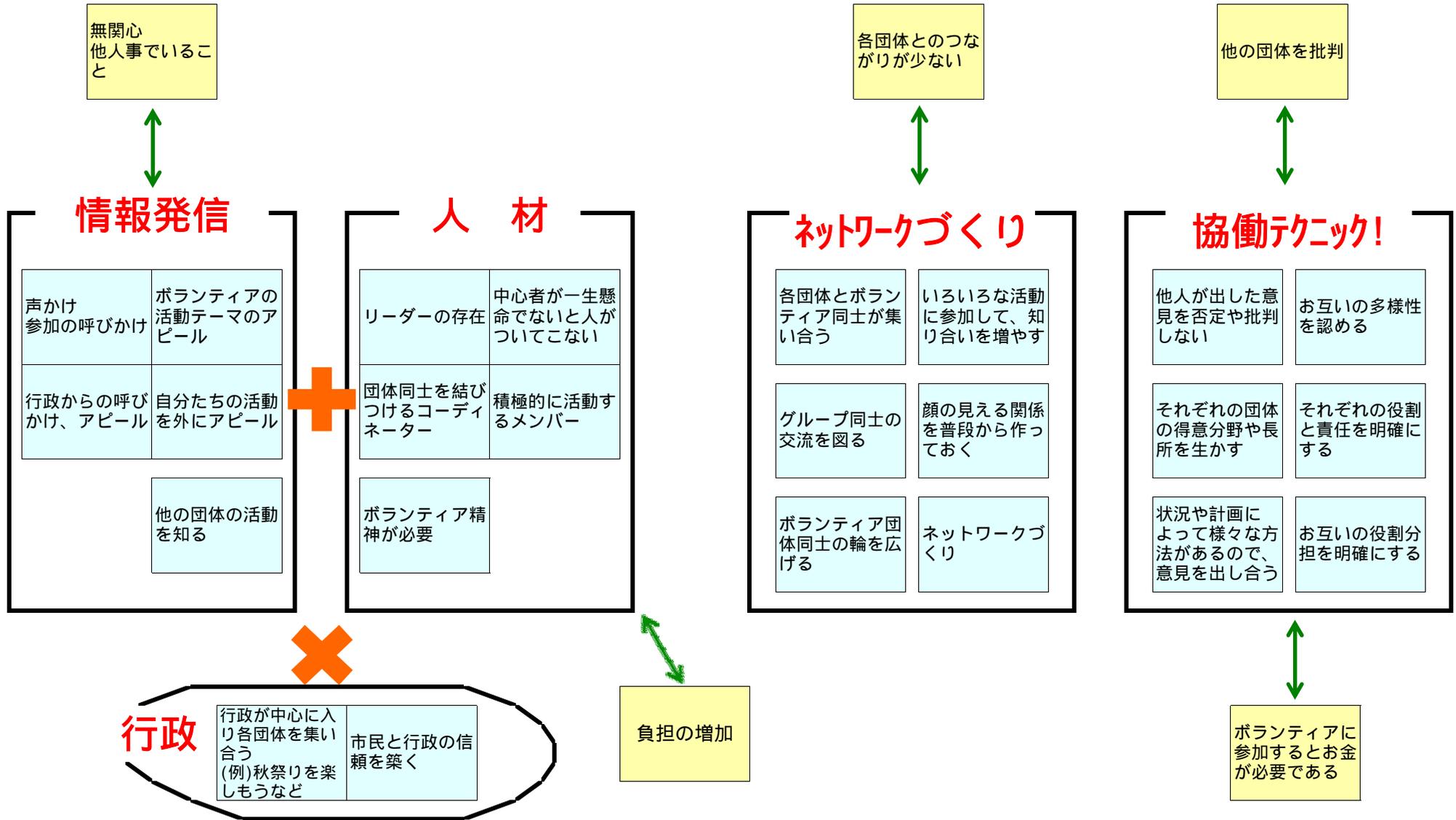
協働に対する市民ニーズの把握が不十分である	情報の伝達手段が少ない 乏しい	新たに市民活動を始めようと考えている人にとって、そのきっかけがない つかめない	協働の活動に必要な予算等の確保が難しい
		行政の説明責任の不足と情報発信の弱さ(フォローアップ不足)	

意識的要素

市民と行政の役割分担に基づき連携協力する意識が低い	自分のことが精いっぱい 地域の活動や出来事に興味を示さない	地域におけるコミュニティ機能の低下や意識の希薄化	<協働の妨げ> 従来からの慣習にこだわり現状を変えようとする意識 体質	自治公民館を拠点とした活動について地域間格差が大きい
---------------------------	-------------------------------	--------------------------	--	----------------------------

「より良い協働を進めるためには」

Dグループ



第3回 市民協働推進指針策定委員会 ワークショップグループ

グループ	氏名	所属団体等	備考
A	宮崎 常男	矢板市区長会	
	池田 博	矢板市老人クラブ連合会	
	君島 里美	矢板市婦人会	
	星 哲夫	一般公募者	
	斎藤 隆之	市 都市建設課	欠
B	三好 良重	片岡地区コミュニティ推進協議会	
	飯村 陵子	シルバーサポーター	欠
	池田 ミチエ	老人給食ボランティア	
	海瀬 元之	ふるさと創年大学	
	佐山 公康	一般公募者	
	関谷 一男	市 生活環境課	
C	小口 晋	矢板市自治公民館連絡協議会	欠
	鍛冶 知明	ボランティアネット	
	齋藤 修	泉地区むらづくり推進会議	
	鈴木 久	矢板まちづくり研究所	
	櫻井 きの未	一般公募者	
	田城 博子	市 総務課	
D	大柿 弘子	オピニオンリーダー	
	澳原 初男	矢板市子ども会連合会	
	小林 勇治	矢板市青少年育成市民会議	欠
	高野 茂	一般公募者	欠
	金澤 雅子	市 福祉高齢課	
	高瀬 智明	市 生涯学習課	